

### 第3章 調査の分析・考察

#### 1 調査の分析と考察

##### (1) 受講者の基本属性について

一部の調査対象研修は、「生徒」や「学生」、「地域で～に携わっている方」等、対象者の所属や年齢を指定しているため、今回の結果から所属や年齢による受講方法の選択の特徴は見いだせない。【図 2-1、図 2-2、図 3-1、図 3-2】

##### (2) 学習環境について

多くの受講者は、普段からインターネットを使っていることが分かるが、対面での受講者の半数近くがリアルタイムでのオンライン受講に慣れていないと推察できる。【図 4、図 5】

さらに、学習環境に関してオンライン型の受講者から得られた 108 の回答について分析を行った。

※【表 2】の No.1 と 2、7 と 8 については連続研修のため、全ての研修終了後の回答について、午前中のみ受講者については、午前の研修終了後の回答について分析している。

##### ア オンライン型研修受講者の Zoom のスキルと受講のしやすさの関係

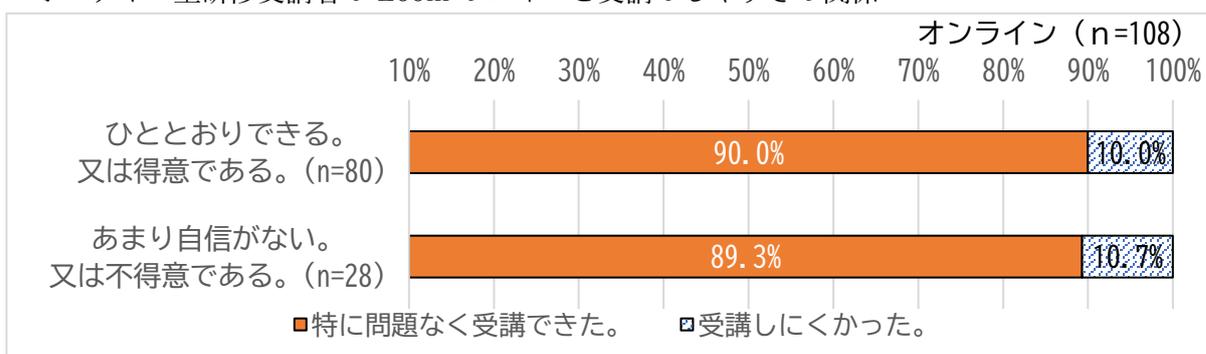


図 10 Zoom のスキルと受講のしやすさの関係 (オンライン)

・受講者の Zoom のスキルと受講のしやすさについては、大きな差は見られなかった。

##### イ オンライン型研修受講者の研修に使用した端末と受講のしやすさの関係

研修受講時、配信画面の視聴に使用した端末と受講のしやすさについて下表にまとめた。

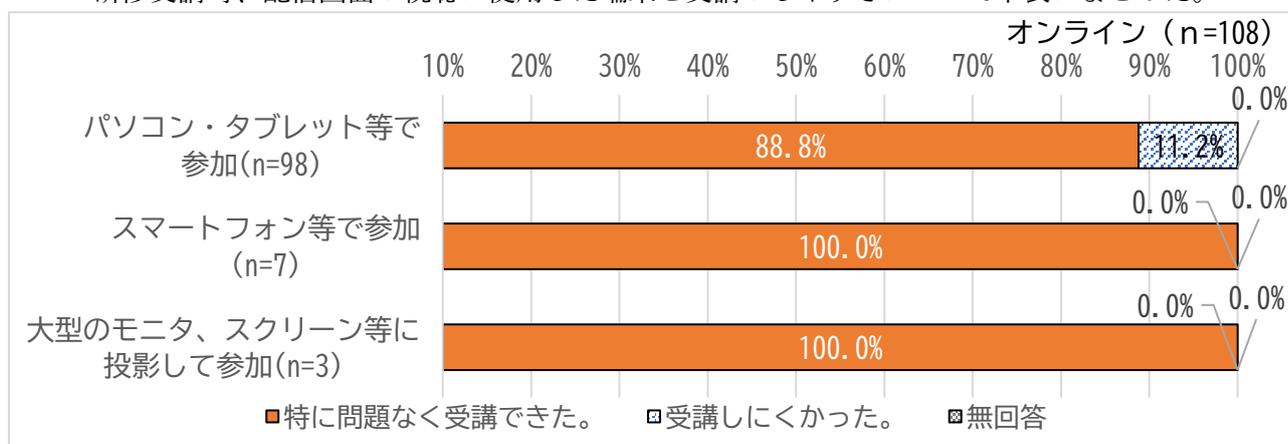


図 11 研修に使用した端末と受講のしやすさの関係 (オンライン)

・パソコン・タブレット等を使用しての受講で、11.2%が受講しにくかったと回答している。少数であるがスマートフォン等を使用した人がおり、特に問題なく受講できたと回答している。

ウ オンライン型研修の受講のしにくさの理由

受講しにくかった理由は次のとおりである。(複数回答 その他の記述については、内容を要約して提示)

表4 受講のしにくさの理由 (n=11)

	ひとつおりにできる。又は得意である。(n=8)	あまり自信がない。又は不得意である。(n=3)
提示資料が見にくかった。	0	1
音声聞き取りにくかった。	4	2
機器等のトラブルがあった。	1	1
その他	6	2
→その他の記述	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブレイクアウトルームに入るとスライドが見えなくなり、何をしようかわからなくなった。</li> <li>・グループワークがやりにくかった。</li> <li>・ワークのところで、実施内容がわからない場面があった。</li> <li>・会場で参加者同士の交流が図れたのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブレイクアウトルームに入るタイミングで、講師の説明が聞けなかった。</li> </ul>

・特に、音声の聞き取りにくさ、ブレイクアウトルーム利用時の研修の受けにくさ、グループワークのしにくさ等、オンラインならではの理由が挙げられている。

学習環境に関する分析結果から、オンライン型研修の受講者の受講のしやすさと Zoom のスキルとの関連は見られなかったが、音声の聞き取りにくさやブレイクアウトルーム利用時の研修の受けにくさ、グループワークのしにくさなどがあることが分かった。

オンライン型研修については、今後、受講者の Zoom のスキルに配慮した研修計画・運営により、参加しやすくなると考えられる。オンライン型研修の受講のしにくさについては、グループワークの工夫やブレイクアウトルームのタイミング等、研修を提供する側が配慮することで解消できる部分もあると考える。

次に、6月20日にハイフレックス形式で実施した「家庭教育オピニオンリーダー研修」・「家庭教育支援プログラム指導者研修」について、受講者が自由に受講方法を選択できるハイフレックス形式で実施したこと、オンラインと対面の受講者数の偏りが少なかったことで、同一の研修での比較がしやすいと考え、回答結果を取り出して分析を行った。

エ Zoom のスキルと受講方法の選択の関係

Zoom のスキルについて「あまり自信がない。又は不得意である。」を選択した人と「ひとつおりにできる。又は得意である。」を選択した人が、それぞれどの受講方法を選択しているかまとめた。

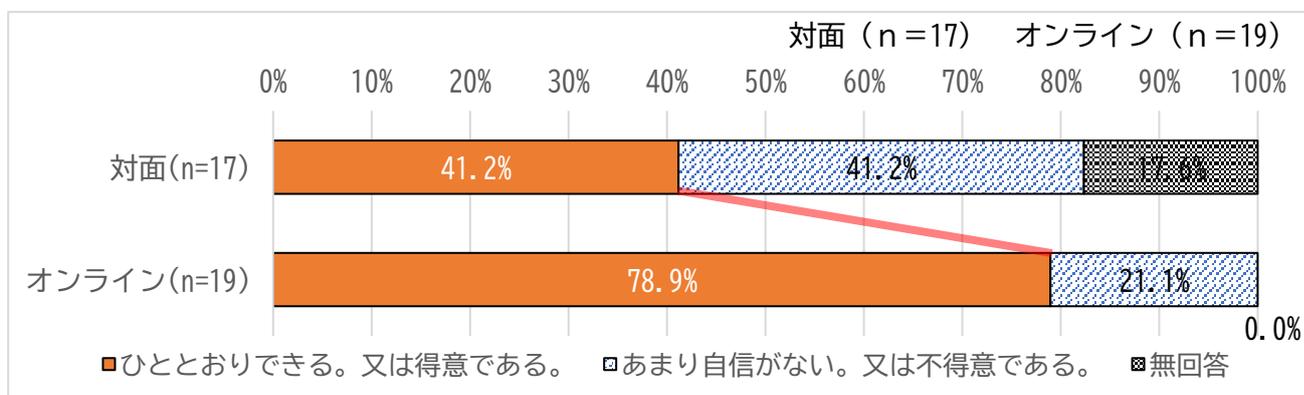


図12 Zoom のスキルと受講方法の関係

- ・オンライン型研修で受講した人は、「ひととおりできる。又は得意である。」と回答した割合が78.9%。
- ・Zoomのスキルが高い受講者はオンライン型研修で、そうでない受講者は対面型研修で受講する傾向があることが分かる。

「ひととおりできる。又は得意である。」と回答した人で対面での受講を選択した理由、「あまり自信がない。又は不得意である。」と回答した人でオンライン型研修での受講を選択した理由は次のとおりである。

○「ひととおりできる。又は得意である。」と回答した人で対面型研修での受講を選択

- ・直接話を聞きたかったから。(2)
- ・他の受講生の方々とコミュニケーションを取りたかったため。(2)
- ・初回なので対面で参加したかった。時間に余裕があった。
- ・現地で受けたかったから。 ・安心する

○「あまり自信がない。又は不得意である。」と回答した人でオンライン型研修での受講を選択

- ・場所の移動時間がかからないため。 ・遠方だから。
- ・近く。 ・勤務地の近くのため。

(イ) 受講者の受講方法による受講のしやすさ

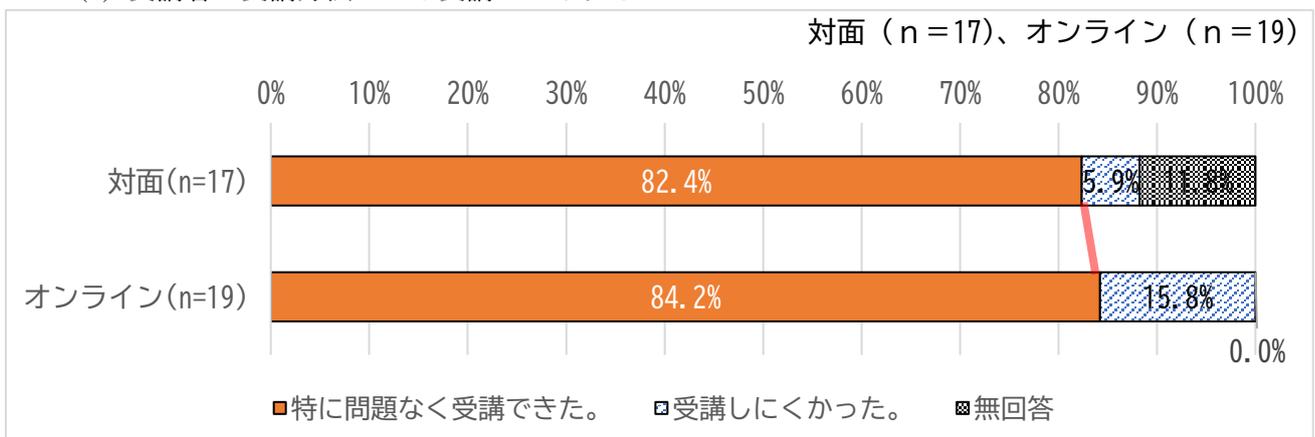


図13 受講方法による受講のしやすさ

- ・対面型研修とオンライン型研修とで、大きな差は見られなかった。

オ 受講者の居住地から会場までの距離と受講方法の関係

受講会場（当センター）から受講者の居住地の市役所・町役場までの距離と受講方法を選択した理由の関係を【表5】にまとめた。

表5 居住地から会場までの距離と受講方法

会場までの距離(km)	対面受講	オンライン受講	対面受講の主な理由	オンライン受講の主な理由
10km 未満	1	1	・ <u>直接話を聞きたかった</u> から	・ 場所を選ばず受講できる
10km～20km 未満	2	1	・ <u>会場や参加者の雰囲気を知りたかった</u> から	・ 普段活用しているため
20km～30km 未満	3	6	・ 初回なので対面で参加したかった ・ 安心する ・ 現地で受けたかったから	・ <u>会場まで行くのにやや時間がかかる</u> エリアのため ・ 参加しやすい ・ 近く ・ 勤務地の近くのため ・ <u>会場までの移動時間の短縮</u> のため
30km～40km 未満	6	4	・ 最初の受講だったため ・ <u>他の受講生の方々とコミュニケーションを取りたかった</u> ため ・ やる気スイッチを入れるため ・ 集中して参加できる ・ <u>雰囲気</u> ・ <u>Zoomを使う自信がなかった</u> ため ・ <u>オンラインが難しい</u>	・ <u>会場が遠方</u> のため ・ <u>会場までの移動が面倒</u> だったため ・ <u>遠い</u>
40km～50km 未満	1	2	・ <u>受講者とのコミュニケーション</u>	・ <u>直前まで仕事があり現地に行けなかった</u> から ・ <u>研修が終わり次第、仕事にすぐに参加できるように職場で受講</u>
50km 以上	2	5	・ <u>直接講話を聞きたかった</u> から	・ <u>遠方だから</u> ・ <u>場所の移動時間がかからない</u> ため ・ <u>仕事がたてこんでいた</u> ため ・ <u>午後別件があった</u> ため ・ <u>移動時間がない</u> ので
無回答	2	0		

対面 (n=17)、オンライン (n=19)

## ○対面型研修

- ・ 対面型研修での受講を選択した人は、距離に関わらず、受講者とのコミュニケーションが取りたい、直接話を聞きたい、場の雰囲気を知りたいなどの理由があった。
- ・ 距離が 30km～40km 未満の受講者で、Zoom (オンライン) での受講が難しいという理由から対面型研修での受講を選択した人がいた。

## ○オンライン型研修

- ・ 距離が 20km を超えると、会場が遠いこと、移動に時間がかかることなどの理由が出てきた。

受講者同士や講師とのコミュニケーション、場の雰囲気を知ることが対面での受講理由になっていることが分かった。受講者同士や講師とのコミュニケーションを重視している場合は、移動の労力をかけても対面での受講を選択する場合があるのではないかと考えられる。

また、この回の研修の形態は「説明」及び「講話」だったため、主に聞くことが多い研修であった。そのため、研修内容と移動コストのバランスを考えてオンラインを選択した受講者が多いのではないかと考えられる。

移動距離が 20km 以内の場所に研修会場を設定することで、対面での受講がしやすくなると思われる。

対面型受講者の中には、オンライン型での受講スキルが向上することにより、オンライン型研修を受講する人が増えると考えられる。

### (3) 受講方法に関する受講者の意識の分析から

「受講方法(対面型研修・オンライン型研修)に関する受講者の意識」の記述から、対面型研修は、受講者同士や講師とのコミュニケーションが取りやすく、他の受講者の前向きな雰囲気・講師の熱量等を感じることで意欲の向上につながるというメリットが考えられる。

一方で、研修会場まで移動するのに時間や費用がかかることや、交通手段の手配が必要になることが対面型研修のデメリットだと考えられる。また、対面型により見知らぬ人と同じ空間にいることで生じる緊張感もデメリットとなる可能性がある。

オンライン型研修については、研修会場までの移動の必要がなく、場所を選ばず受講ができるというメリットがある。また、受講者は落ち着く環境で受講することができる。

一方で、受講者同士や講師とのコミュニケーションが取りにくく、孤立感も感じやすい。集中力の維持やリアルタイムでのフィードバックの難しさもある。また、機器の操作が必要なことや接続のトラブルが発生することがあることから、受講者に一定のスキルが求められる。

対面型研修とオンライン型研修の利点と課題を下表にまとめた。

表6 対面型研修とオンライン型研修の利点と課題

	利 点	課 題
対面型 研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションが取りやすく、つながりづくりがしやすい。</li> <li>・他の受講者の前向きな雰囲気や講師の熱量等を感じやすい。</li> <li>・研修の満足度、受講者にとっての学習効果が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動にコスト(時間・距離・労力等)がかかる。</li> </ul>
オンライン型 研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動にコスト(時間・距離・労力等)がかからない。</li> <li>・受講しやすい環境・場所で受講できる(受講のしやすさ)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションが取りにくく、つながりづくりがしにくい。</li> <li>・会場の雰囲気や受講者の様子を感じにくい。</li> <li>・スキルが無いと受講しにくい。</li> </ul>

コミュニケーションについては、対面型研修であれば、休憩中に座席の近い受講者同士やグループワークをした受講者同士で話をしたり、講師に直接質問をしたりする姿が見られるが、オンライン型研修だとそれが容易ではない。そのため、コミュニケーションの取りにくさ、つながりづくりのしにくさを感じるのだと考えられる。

### (4) 学習効果について

「関心・意欲」「知識・理解」の項目については、対面型研修での受講の方が高い効果が得られるが、肯定的な回答を比較すると対面型もオンライン型も同等の効果が得られることが分かる。【図7-1、図7-2】

受講者は、対面型研修の方が研修中にコミュニケーションを十分に図ることができたと感じていることから、社会教育において重要なつながりづくりがしやすいと考えられる。対面型の研修であってもコミュニケーションが取れなかったと感じる受講者がいたため、受講者が主体的に他の受講者

や講師と関わりをつくることのできる環境を準備する必要がある。【図 7-4】

「スキル」については、対面型の研修が多く、オンラインについては調査対象となる研修が少なかったため、比較ができなかったが、オンラインで受講者からは、肯定的な回答を得ている。【図 7-3】

「スキル」について調査した2つの研修は、どちらも対面型研修の「地域学校協働活動推進員養成研修」のため、オンライン型の受講者はライフアップセミナー受講者である。7月19日は、ファシリテーションスキルを高めるための講話・演習が行われ、ファシリテーションの機能や役割、コミュニケーションの技術について確認するなど、実際の活動につながる内容であった。8月29日は、コーディネートの手法について講話・演習が行われ、統括的な立場で推進員をされている方を講師に、具体的な事例や取組の実際を聞いた上で、実施可能なコーディネートを考える演習が行われた。オンラインでの受講者にとっても、ファシリテーションやコーディネートを進める上でのポイントについて納得感のある学びとなった、又は受講の目的に合致する学びだったのではないかと考えられる。

移動コスト等の負担と学習効果のバランスを考えると、対面とオンラインの併用がよいと考えられる。特に、回数の多い連続研修においては、各回の内容・ねらいに応じて開催方法を変えることで、受講者の負担を減らすことができると考える。【図 7-1、図 7-2、図 7-3、図 7-4、表 5、表 6】

#### (5) 受講方法による受講者の指向（評価）について

調査の対象となった研修について肯定的な回答を見ると、対面型研修でもオンライン型研修でも、受講者はおおむね満足できることが分かった。【図 8】「満足できる研修となった（そう思う）」と回答した要因を比較すると、「学びの深まり」「研修の内容と受講方法の親和性（相性・なじみやすさ）」の回答が多く、対面型とオンライン型の受講者として同じくらいの割合だった。「講師の進め方」「受講者とのコミュニケーション」の割合を見ると対面型の受講者の方が数値が高く、「集中できる環境」「モチベーション」はオンライン型の受講者の方が数値が高かった。【図 9】

さらに、「講話」「説明」「講話・事例発表」「講話・演習」の4つの受講形態について比較した。「講話」「説明」「講話・事例発表」は、主に聞くことの多い内容であるが、内容によってペアトークやグループでのふりかえり等を行うことがある。「講話・演習」は、個人作業やペアトーク、グループワーク等が多く入る。

#### ア 「受講方法による満足度」と「研修の形態」の関係の分析結果

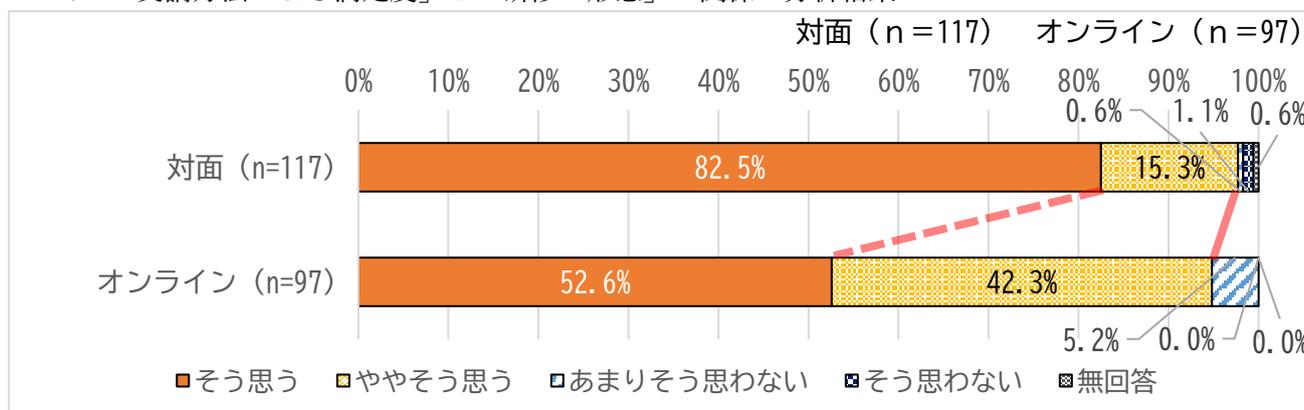


図 14-1 「受講方法による満足度」と「研修の形態」の関係（講話）

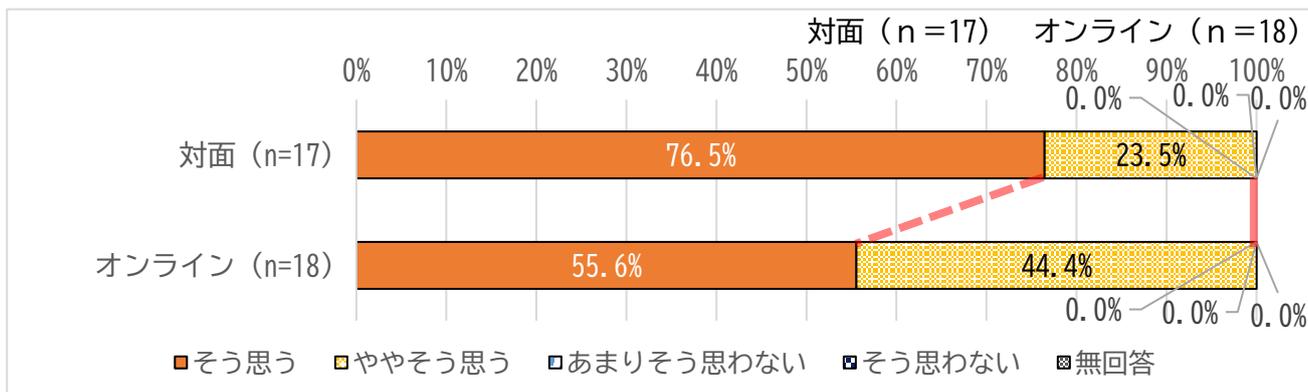


図 14-2 「受講方法による満足度」と「研修の形態」の関係（説明）

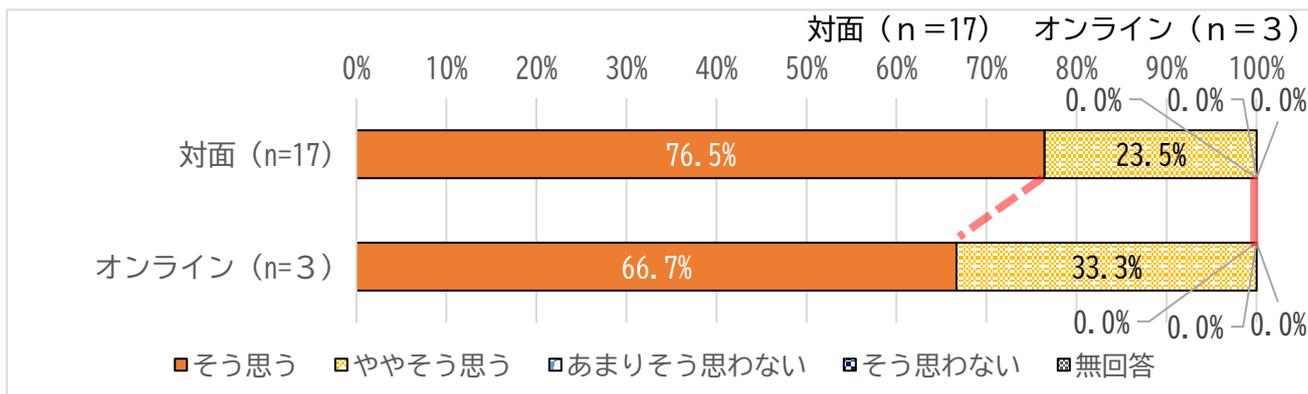


図 14-3 「受講方法による満足度」と「研修の形態」の関係（講話・事例発表）

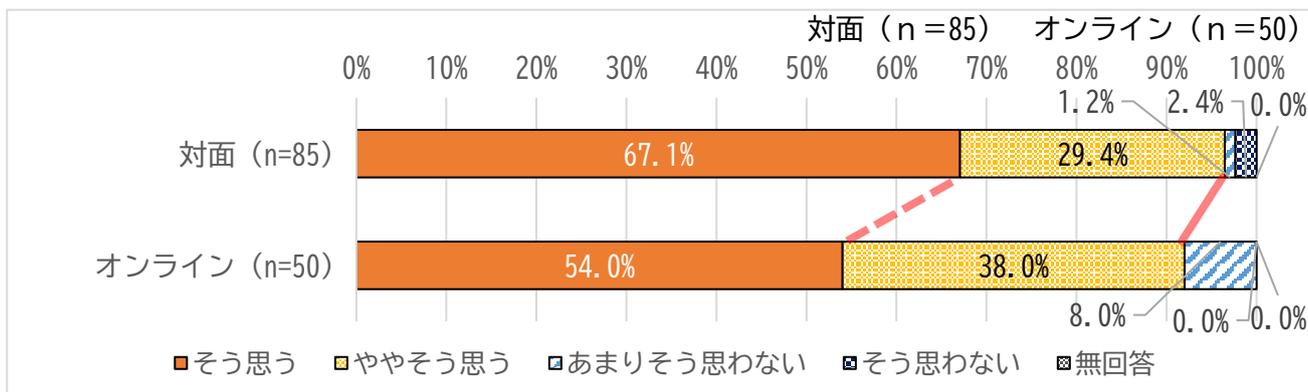


図 14-4 「受講方法による満足度」と「研修の形態」の関係（講話・演習）

- ・講話・事例発表については、オンライン受講者のサンプル数が少ないため比較は難しいため、結果を提示するにとどめる。
- ・講話、説明、講話・演習について「そう思う」と回答した割合は、対面型研修の方が高く、講話は 29.9 ポイント、説明は 20.9 ポイント、講話・演習は 13.1 ポイントの差があった。
- ・肯定的な回答を比較すると、対面型研修もオンライン型研修も大きな差は見られない。

対面型の方がグループワークがしやすく、リアルタイムで直接的なやり取りができることから、学びの深まりや研修の満足度につながると考えられる。

オンライン型の研修でも、研修方法等を改善することで、満足度を上げることができると考えられる。そのために、「講師の進め方」や「受講者とのコミュニケーション」について工夫する必要がある。